

「技術とイノベーションで、未来を創造する」

～更なる生産性向上と新たな価値創出に挑戦～

MSホールディングス株式会社

代表取締役社長 松田 佳久 氏

●インタビュアー

名古屋中小企業投資育成株式会社
専務取締役 五十嵐 健二



MSホールディングス株式会社 会社概要

(2025年8月期)

本社所在地：愛知県春日井市牛山町字沖仲3030番地

事業内容：自動車用スイッチ、ワイヤーハーネス製造

設立年月：2022年11月

売上高：20,448百万円（グループ合算）

従業員数：630名（グループ合算）

松田 佳久 氏 プロフィール

1958年 愛知県生まれ

1998年 株松田電機工業所代表取締役社長就任

1999年 松栄電工（株）代表取締役会長就任

2022年 同社代表取締役社長就任

趣味：マインドフルネス（瞑想）

《シナジーと革新を生む新たな拠点》

【五十嵐】グループ会社に(株)松田電機工業所と松栄電工(株)がありますが、まずは事業内容や沿革についてお聞かせください。

【松田】(株)松田電機工業所は1946年に創業し、主に自動車向けのスイッチを製造しており、春日井市(本社)、岐阜県郡上市、タイに生産拠点を構えています。スイッチの成形から、金型や治工具の製作、組付け作業まで一貫して行える生産体制を整えており、これが当社の大きな強みです。



〈(株)松田電機工業所 本社工場〉

松栄電工(株)は1970年に創業し、愛知県新城市で自動車用ワイヤーハーネスやスイッチの製造を行っています。ワイヤーハーネス事業では、樹脂で部品をコーティングし、防水・防塵性を高めるポッティング技術を強みとしているほか、各種搬送装置の開発や画像検査技術も強みとしており、自社開発を行った一部の搬送装置や画像検査装置は外販も行っています。



〈松栄電工(株) 本社工場〉

2022年には、グループのシナジーをより高める目的から、両社を統括する持株会社「MSホールディングス(株)」を設立しました。これにより、両社の兄弟会社としての関係性が明確となり、生産や開発など幅広い分野での協働を強化する予定です。

〔株〕松田電機工業所(スイッチ製品)



〔松栄電工(株)〕ワイヤーハーネス製品



〈製品例〉

【五十嵐】2023年に竣工した(株)松田電機工業所の新工場が注目を集めています。

【松田】新本社工場は、旧本社工場(愛知県小牧市)に代わり、生産体制の抜本的見直しと工場内物流の最適化を図ることを目的に、約60億円を投じて建設しました。旧本社工場の老朽化や生産性低下に加え、西濃工場・和良工場を含む国内3拠点の連携強化も課題であったことから、将来的な拠点集約も視野に入れた取り組みです。

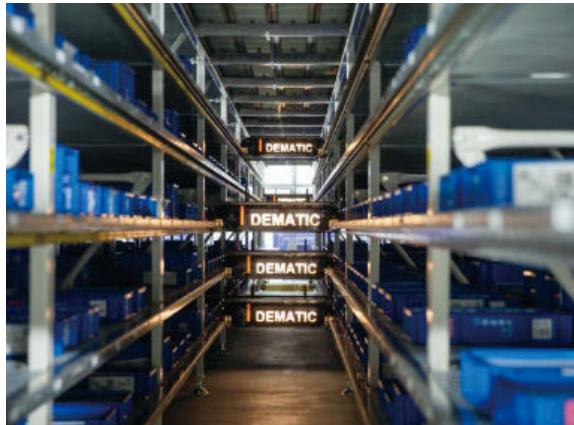
新工場の主な特徴として、①生産の自働化、②DX化、③物流の省人化の3つが挙げられます。まず、①生産の自働化ですが、新工場の生産設備はロボットを用いた自動組付けラインをはじめ、画像検査機、レーザー刻印機、トレイチェンジャー等の自動化設備を数多く導入しています。特に量産品のスイッチ組立工程では、組立から検査、梱包までの各工程を完全自働化でき、生産性向上に大きく貢献しています。



＜ロボットを用いた自動組立ライン＞

②DX化では、生産管理や品質管理の高度化を目的に、生産や設備稼働の状況を自動で記録・分析できるIoTツールを自社開発しました。各生産設備に設置されたこのツールは、設備の動作やランプの点灯状況をモニタリングし、稼働データを自動的に蓄積します。以前まで紙やExcelで記録・管理していた生産実績や、設備停止の原因等も、作業者がタッチパネルで簡単に入力できようになっています。現場でのアナログな業務をデジタル化したこと、作業時間が大幅に削減されたほか、これまで見えなかつた稼働データや設備停止原因の傾向等が見える化でき、カイゼン活動のスピードと精度が飛躍的に向上しました。

③物流の省人化では、中小企業では珍しい、自動倉庫システム、AGV(無人搬送車)による搬送システム、デパレタイズ(荷下ろし)ロボットを活用した入庫システム等、大規模な物流設備を整備しました。特に、製品保管用の自動倉庫システムは高価な設備ですが、製品のピッキング作業を完全自動化することで、10名以上の省人化に寄与しました。効率的な在庫管理と迅速な出荷が実現できたことで、取引先からも高い評価をいただいています。



＜製品用自動倉庫システム＞

その他、入出庫の際に箱物・パレット等を搬送するローラーコンベアや生産設備周辺のシャーテーといった装置は松栄電工(株)のノウハウを用いて内製しています。これら装置や制御プログラムを自社開発できるのはグループ全体の強みだと思います。



＜松栄電工(株)開発 ローラーコンベア＞

現在は、工場内の物流システムをさらに高度化させるため、AMR(自律走行搬送ロボット)の自社開発を進めています。決められたルートを走行するAGVとは異なり、カメラやセンサーを用いて周囲の状況を感知し、人や障害物を自律的に回避しながら柔軟なルートで搬送できるため、人の往来が多い製造フロア等でも、安

全に人と協働することが可能になります。現在、工場の製造エリアは従業員が運転する牽引車で自動倉庫まで製品を運搬していますが、近い将来、自社開発のAMRに置き換えていく方針です。



〈AMRの開発風景〉

新工場は、広報・営業面において、企業の魅力を社内外に発信する「ブランディングファクトリー」と位置づけ、工場見学も積極的に受け入れています。地域の企業や団体、取引先等に当社の技術力と取り組みを直接感じていただける場であり、ぜひ多くの皆様に見ていただきたいです。

《新たな価値創造へ挑戦》

【五十嵐】新工場の活用を通じた今後の狙いはどのようなところにあるのでしょうか。

【松田】自動車業界は今、電動化や自動運転といった大きな変革期を迎えており、製品に求められる要素も変化しています。こうした変化の中で、これからも安定的に製品を供給し続けるためには、従来培ってきた技術に加えて、先進的な技術を習得し続けることが不可欠です。また、自動車分野に限らず、そこで磨いてきた技術を応用し、他分野でも新しい製品やサービスを生

み出し、事業の柱に育てていくことも重要だと考えています。新工場はグループの総合力発揮と技術力向上の場、そして先進的な知見を取り入れ、これまでにない価値を創造する拠点として活用していきます。

このような背景から、「IM(イノベーション・マネジメント)プロジェクト」という取り組みを実施しています。部門横断型の3つの専門チーム(生産ラインFAチーム、測定業務チーム、生産業務DXチーム)を編成し最新のデジタルツールを駆使することを目指し、今までの業務を抜本的に改革すべく、新たな挑戦に取り組んでいます。これまで当社が培ってきた知見や技術と、次世代の研究開発や外部の知見を結びつけることで、これまで以上に生産性を向上させ、加えて将来の事業を支える新たな芽を育てていくことを目指しています。

【五十嵐】自動車分野以外ではどのような事業に着手されているのですか。

【松田】自動車用のスイッチで培ったノウハウを基に、農業機械や建設機械用のスイッチ製造を開始しています。自動車に使用されるスイッチの一部は、将来的にタッチパネル等に代替される可能性もあるため、今後、自動車業界以外に向けたスイッチ製品についても幅広く手掛けていきます。

また、近年では、農業分野での研究開発にも着手しました。具体的には、松栄電工(株)で農業用ハウスの温度調節を自動化するシステムの開発を進めています。温度や環境を正確に検知するセンシング技術、最適なタイミングで装置を動かす制御技術、そして工場の自動化で培った生産技術といった、当社の独自技術に、外部専門家の知見を組み合わせ、蓄熱・放熱技術を研究しています。現在、トマトの試験栽培を行いながら、これらの技術を統合し、ハウス内の温度調整を

自動化するシステムの確立を目指しています。この仕組みが完成すれば、冬季にハウス栽培の現場で必要とされる電気や燃料を大幅に削減することができるため、持続可能な国内農業の実現に向け、大きな価値を提供できると思います。



＜松栄電工(株)試験農場 鳳来ハウス＞

《オープンイノベーションの先に》

【五十嵐】社外の知見も活かした研究開発を行っておられるのですね。

【松田】技術開発においては、オープンイノベーションを重視しており、他の企業や大学教授との連携を強化しています。愛知県が主導して2024年に開業したインキュベーション施設「STATION Ai」にも社員が常駐しています。

先端技術についてはスタートアップの知見を積極的に取り入れつつ、一方で当社のものづくりに関するノウハウを提供し、互いに補完し合う関係を築いていきたいと考えています。自社の技術と社外の知見を組み合わせることで、これまでにない新たな製品やサービスの開発が可能になると考えています。

その他にも、これまでにない価値を生み出すために、「Shake up Cafe(シェイクアップカフェ)」という企業交流イベントを開催しています。

毎回、個別テーマを設定して参加企業を募り、当日はトーク&ディスカッションで参加企業同士の意見交換を行っています。異業種や普段接点のない企業が交流することで、新たな発想や行動のきっかけを生み出し、企業間のつながりを深めることを目指しています。



＜Shake up Cafe 開催風景＞

【五十嵐】最後に、御社が描く成長ビジョンをお聞かせください。

【松田】今後も、ものづくり企業として自動車業界で培った技術をさらに磨くとともに、オープンイノベーションを深化させ、外部の知見や技術を積極的に活用していきます。投資育成会社の投資先をはじめ、優れた知見を持つ企業とも、業種を問わず幅広く連携させていただきながら、歩みを進めていきたいと考えています。

こうした取り組みを通じて、自動車業界にとどまらず、幅広い分野で価値を生み出す挑戦を継続していきます。そして、地域とともに成長し、産業と社会の発展に貢献する企業を目指したいと考えています。

【五十嵐】新たな事業領域へ挑戦していく御社の企業価値向上に向け、弊社も引き続き伴走支援をしていければと思います。

本日はありがとうございました。